

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	洛西口・桂駅高架下地区都市再生整備計画														
計画の期間	平成31年度　～　令和02年度　（2年間）												重点配分対象の該当		
交付対象	京都市														
計画の目標	・阪急電鉄京都線洛西口駅～桂駅の高架下空間を活用した「歩いて楽しいにぎわいのあるまちづくり」を推進する。 ・地域交流を促進し、まちづくり活動を活性化する。														
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		567	A	567	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初		H32末
1	バス停（洛西口駅前，川島六ノ坪，自衛隊前，蓮田町，桂高校前，野田町）の乗降客数（人/日）			
	バス停（洛西口駅前，川島六ノ坪，自衛隊前，蓮田町，桂高校前，野田町）の乗降客数	812人/日	人/日	914人/日
2	地域交流施設の利用回数（回/月）			
	地域交流施設の利用回数	33回/月	回/月	51回/月
3	洛西口駅南東部地域の住民が高架下施設まで安全に歩いて到達できる所要時間の短縮			
	洛西口駅南東部地域の住民が高架下施設まで安全に歩いて到達できる所要時間の短縮	6分	分	3分

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																					
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
		一体的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	京都市	直接	京都市	－	－	都市再生整備計画事業（ 洛西口・桂駅高架下地区 ）	186ha（うち公共施設整備敷 地約1,688m2）	京都市	■	■				567		－		
												小計						567			
																			567		

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
成果目標に関連する期間事業担当課において評価の実施	令和２年度末時点の都市再生整備計画変更内容反映後に実施
	公表の方法 京都市ホームページにより公表
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・ 阪急電鉄京都線洛西口駅～桂駅の高架下空間の魅力向上に貢献し、新たな人の流れとにぎわいの創出につながった。 ・ 本計画により整備した施設が、地域の交流促進やまちづくり活動の場として積極的に活用され、地域活動の活性化につながった。 ・ 洛西口駅南西部地域の住民が高架下まで安心安全に、早く移動できるようになった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・ 施設利用者の６割が２回以上施設を利用しており、継続的な利用がなされている。 ・ 全体の約70％が施設の内容に満足し、本施設を他人に勧められるとの回答だった。
○特記事項（今後の方針等）	
高架下空間の魅力を維持・向上していくため、他の高架下空間の整備主体やテナントの民間事業者、まちづくり団体や周辺住民等の多様な主体と連携し、「共治（きょうち）」によるまちづくりを推進する。	

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	公共交通（バス）の利用者数		
	最 終 目標値	914人/日	新型コロナウイルスの感染拡大の影響から公共交通による移動が敬遠される状況となったため
	最 終 実績値	822人/日	
2	地域交流施設の利用回数		
	最 終 目標値	51回/月	地域の交流促進やまちづくり活動の場として積極的に活用されたため
	最 終 実績値	100回/月	
3	所要時間の短縮		
	最 終 目標値	3分	
	最 終 実績値	3分	

都市再生整備計画 事後評価シート

洛西口・桂駅高架下地区

令和3年3月

京都府京都市

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	洛西口・桂駅高架下地区			面積	186ha
交付期間	令和元年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	538.5百万円	国費率	0.4		

			事業名										
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(桂馬場線)、地域生活基盤施設(デッキ、情報板)、高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(図書スペース)、事業活用調査(バス乗降者数調査)										
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業											
		提案事業											
		新たに追加した事業	基幹事業										
	提案事業												
交付期間の変更	当初				交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	公共交通(バス)の利用者数	人/日	812	H24	914	R2	778	822	△	あり なし	● ●	新型コロナウイルスの感染拡大の影響から公共交通による移動が敬遠される状況となり、また、本計画により整備した施設の利用者の大半が徒歩等で来館していることから、本指標の数値目標については達成できなかったものの、阪急電鉄京都線洛西駅～桂駅の高架下空間の魅力向上に貢献し、新たな人の流れとにぎわいの創出につながった。
	指標2	地域交流施設の利用回数	回/月	33	H29	51	R2		100	○	あり なし		本計画により整備した施設が、地域の交流促進やまちづくり活動の場として積極的に活用され、地域活動の活性化につながった。
	指標3	所要時間の短縮	分	6	H30	3	R2		3	○	あり なし		本計画により、都市計画道路桂馬場線が整備され、洛西口駅南西部地域の住民が高架下まで安心安全に、早く移動できるようになった。
	指標4										あり なし		
	指標5										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	通行量	人	1,101	R2				1,401				本計画により整備した施設が、高架下空間の往来を増加させ、賑わいの創出に寄与した。
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	○ 本計画により整備した施設の利用実績(開業(令和2年9月11日)から同年12月末まで)は、利用者数約13,000人、地域活動等での利用回数は約170回 ○ 施設の利用者を対象にしたアンケートを実施した結果、以下の項目が判明した。 ・施設利用者の6割が2回以上施設を利用しており、継続的な利用がなされている。 ・全体の約70%が施設の内容に満足し、本施設を他人に勧められるとの回答だった。 ・利用交通機関については、徒歩及び自転車の利用が全体の6割以上を占めており、バスを利用した来訪は1割未満と少数派だった。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	バス乗降者数調査(簡易計測)					都市再生整備計画に記載し、実施できた						
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●		
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	愛称投票					都市再生整備計画に記載し、実施できた						
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●					
持続的なまちづくり体制の構築	エリアマネジメントを担う新たなまちづくり団体の立上げ					都市再生整備計画に記載し、実施できた							
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				団体立上げに向け、助言や事務手続きのサポート等のフォローアップを実施する。			

様式2-2 地区の概要

[illegible]

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(事業期間)		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	桂馬場線	400	道路新設	386	道路新設	用地買収費の変更	影響なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	デッキ	26	約283㎡	17	約235㎡	入札時の落札差金及び設計変更等による事業費減	影響なし	●	
	情報板	1	2基	2	1基	情報板の仕様及び基数変更	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	地域交流センター	127	約682㎡	122	約614㎡	入札時の落札差金及び設計変更等による事業費減	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	図書スペース	10	約30㎡	12	約28㎡			●	
事業活用調査	バス乗降者数調査	3		1		入札時の落札差金に伴う事業費減		●	
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
洛西口桂駅間プロジェクト		マルチスペース, 駐輪場, レンタサイクル等			H29～R2		完成	
		子育て応援施設	187	137	R1	R1～R2	完成	
		カフェ	42	61	R1	R1～R2	完成	
阪急京都線(洛西口駅付近)連続立体交差化事業		連続立体交差化事業			H19～H29		完成	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
					基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	公共交通(バス)の利用 者数	人/日	本件施設最寄りのバス停※の乗降 客数(人/日) ※洛西口駅前、川島六ノ坪、自衛 隊前、荏田町、桂高校前、野田町	—	—	812	H24	914	R2	モニタリング	R2	778	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定 見込み	●	822	事後評価		
指標2	地域交流施設の利用回 数	回/月	市民団体等による当該エリアの地 域交流施設※の平均利用回数(回 /月) ※川岡会館・榎原公会堂・東川島 集会所・本件施設	—	—	33	H29	51	R2	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	100	事後評価		○
指標3	所要時間の短縮	分	洛西口駅南東部地域の住民が、高 架下施設まで安心安全な経路で到 達できる所要時間の短縮(分)	—	—	6	H30	3	R1	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	3	事後評価		○
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)								その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	従前値は、本市交通局にて平成24年度実施した交通量調査の数値を採用しており、事後評価の数値についても令和2年度に実施を予定していた同調査を確定値として採用する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、調査時期の見直し(令和3年度実施予定)があったため、当初予定していた事後評価の数値として活用することができなくなった。 このため、本計画により整備する施設の開業前後における市バスの乗降者数を簡易計測(施設の開所時間に合わせた8時間の乗降客数を調査)した値をモニタリングしたうえで、当該増加量を本計画による純粋な乗客の増加量とし、従前値に加えることで見込値を算出した。 その結果、開業前の計測値(令和2年9月2、6日調査実施)768人に対し、開業後の計測値(令和2年10月28日、11月1日調査実施)は778人と微増した(上記方法で算定した見込値については822人となった。)。結果が微増にとどまった理由としては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から公共交通による移動が敬遠されたこともあり、本計画により整備した施設の利用者の大半が徒歩や自転車を利用して来館している(施設利用者アンケートの結果に基づく。)ことが大きな要因であると考えられる。 しかしながら、施設の利用者は開業後約2箇月で1万人を超えるなど盛況であり、先述のとおり利用者の多くが徒歩等で来館していることから、本計画の目標である『高架下空間を活用した「歩いて楽しいにぎわいのあるまちづくり」を推進する』ことについては達成している。								左記のとおり、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、公共交通を利用しての来館は少数派でその傾向は今後も大きく変わらないと考えられることから、当該指標に事業効果が反映されにくく、目標の達成度を的確に測定し難いことに加え、現時点においても、歩行者・自転車通行量の増加等他の効果発現状況から目標を達成していると十分認められることから、当該指標に係るフォローアップは実施しない。							

指標2	従前値は、本計画区域内に存する地域交流施設の年間利用実績に基づく一箇月当たりの平均値であるが、本件施設が建築資材の納期遅延により、開業日が令和2年9月となり、計画期間内に年間利用実績を抽出することができなくなったことから、施設開業後、単月の利用実績が抽出できた4箇月間（10月から翌年1月）の平均値を見込値として算定したところ、目標値を大幅に上回る結果となった。 また、施設の利用に当たっては、年間を通した継続的な利用（地域の文化活動、子育て世代の交流、若年層の交流・学習支援）を目的としたものが多く、本計画の目標である『まちづくり活動を行う任意団体等の活動場所として本計画により整備された施設が積極的に活用され、地域に根差した活動が活発化』することにつながっている。	見込値を算定した段階で目標値の約2倍と大きく上回っており、確定値である年間利用実績の一箇月当たりの平均値を算定するに当たっては、現在の利用回数の1/4程度まで減少しない限り目標値を下回らず、目標値の達成が十分に推定できる状況にあることから、現段階において目標を達成していると認められるため、フォローアップは実施しない。
指標3	従前値は、既存道路でもって、洛西口南西部地域の住民が高架下施設まで安全に移動しようとした場合の所要時間であるが、都市計画道路桂馬場線の整備により、安心安全な歩行者環境が最短距離でつながったことで目標とした時間短縮を達成することができた。	なし
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
その他の 数値指標1	通行量	人	本計画区域内の高架の東側歩 道における、整備施設開業前後 1箇月間の通行量の1日当たり 平均(人／月)	1,101	R2	1,401	R2	モニタリ ング			本指標を取り上げることで、本 計画の目的である高架下空間 の賑わいの創出を定量的に測 定するため。	
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標2								モニタリ ング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリ ング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 本計画により整備した施設の利用実績(開業(令和2年9月11日)から同年12月末まで)は、利用者数約13,000人、地域活動等での利用回数は約170回
- 施設の利用者を対象にしたアンケートを実施した結果、以下の項目が判明した。
 - ・施設利用者の6割が2回以上施設を利用しており、継続的な利用がなされている。
 - ・全体の約70%が施設の内容に満足し、本施設を他人に勧められるとの回答だった。
 - ・利用交通機関については、徒歩及び自転車の利用が全体の6割以上を占めており、バスを利用した来訪は1割未満と少数派だった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
バス乗降者数調査(簡易計測)	予定どおり実施した	● 本計画により整備する施設の開業前後における市バスの利用者数の簡易計測(施設の開所時間にあわせた8時間の乗降客数の調査)を実施した。 【実施頻度】2回 【実施時期】開業前(令和2年9月2, 6日) 開業後(令和2年10月28日, 11月1日) 【実施結果】開業前:768人, 開業後:778人	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
愛称投票	予定どおり実施した	● 本計画で整備する施設の一部(関連事業:子育て応援施設)について、施設に対する理解を深め、利用促進を図ること等を目的として愛称投票を実施した。 【実施頻度】1回 【実施時期】令和2年1月～2月 【実施結果】「ガタゴト(GATAGOTO)」に決定し、同施設の愛称として採用	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
エリアマネジメントを担う新たなまちづくり団体の立上げ	予定どおり実施した	● 本計画において整備した施設を中心とした新たなまちづくり団体の構築に向け、計画区域内で活動するNPO法人のメンバー等を中心に関係者が集まり、体制構築に向けた準備を進めている。 【実施頻度】月1回程度 【実施時期】令和2年11月～ 【実施結果】実施中	未定(協議中)	団体立上げに向け、助言や事務手続きのサポート等のフォローアップを実施する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課会議	都市計画局 まち再生・創造推進室 建設局 道路建設部 道路建設課	令和2年2月5日	都市計画局 まち再生・創造推進室

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		指標○		指標○	
指 標 名		地域交流施設の利用回数		所要時間の短縮					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路【桂馬場線】	○	本計画により整備した施設が、地域の交流促進やまちづくり活動の場として積極的に活用され、地域活動の活性化につながった。	◎	本計画により整備した都市計画道路桂馬場線が整備され、洛西口駅南西部地域と高架下施設まで、安心安全な歩行環境の確保につながったため、所要時間の短縮につながった。				
	地域生活基盤施設【デッキ、情報板】	○		—					
	高次都市施設【地域交流センター】	◎		—					
提案事業	地域創造支援事業【図書スペース】	○		—					
	事業活用調査【バス乗降者数調査】	—		—					
関連事業									

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	施設の利用に係る周知等を積極的に行い、地域活動の場としての認知を高めることにより、新たな活動の創出につなげる。	特に無し		
-------	---	------	--	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標〇			指標〇			指標〇		
指 標 名		公共交通(バス)の利用者数											
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	道路【桂馬場線】	—	新型コロナウイルスの感染拡大の影響から公共交通による移動が敬遠される状況となり、また、本計画により整備した施設の利用者の大半が徒歩等で来館していることから、本指標の数値目標については達成できなかったものの、阪急電鉄京都線洛西口駅～桂駅の高架下空間の魅力向上に貢献し、新たな人の流れとにぎわいの創出につながった。	Ⅲ									
	地域生活基盤施設【デッキ、情報板】	△											
	高次都市施設【地域交流センター】	△											
提案事業	地域創造支援事業【図書スペース】	△											
	事業活用調査【バス乗降者数調査】	—											
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	高架下空間の魅力を維持・向上していくため、他の高架下空間を整備する事業者等と引き続き官民一体となった取組を推進する。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課会議	都市計画局 まち再生・創造推進室 建設局 道路建設部 道路建設課	令和2年2月5日	都市計画局 まち再生・創造推進室

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・高架下用地の利用は一部に限 定されるなど、駅に近くても賑わ いに乏しく、約1kmにわたる遊歩 道は歩くことを楽しめる空間には なっていない。 ・歩行環境は向上しているが、高 架東側の地域は大半が自衛隊柱 駐屯地であることや、高架西側 には第一種低層住居専用地域の閑 静な住宅街が広がるなどの環境 にあるため、整備された歩行空間 に魅力を付与するコンテンツに欠 けている。	高架下空間に魅力的なコンテンツが整備されたことで、 約1kmにわたる遊歩道には歩いて楽しい新たな人の流 れが生まれ、賑わいが創出された。		
南北遊歩道は南側が久世北 茶屋線までとなっており、人口 増加の著しい洛西口駅南東 部地域との安心安全な歩行 環境の接続ができていないた め、にぎわいの連続性やひろ がりが損なわれている。	本計画により、都市計画道路桂馬場線が整備され、洛 西口駅南西部地域の住民が高架下まで安心安全に、 早く移動できるようになった。		
まちづくり活動を行う任意団体 等の活動場所が不足している ため、地域に根差した活動が なされているとは言い難い。	まちづくり活動を行う任意団体等の活動場所として本計 画により整備された施設が積極的に活用され、地域に 根差した活動が活発化している。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	高架下空間の魅力の維持・向上	他の高架下空間の整備主体やテナントの民間事業者、まちづくり団体や周辺住民等の多様な主体と連携し、互いに知恵を出し合い、それぞれの責任において、ともに考え、行動する「共治(きょうち)」によるまちづくりを推進することにより、多くの世代が訪れたくなる魅力あふれる高架下空間の維持・向上をはかる。	・高架下空間全体を活用したイベント等の実施 ・高架下空間を中心とするエリアマネジメントの展開

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	公共交通(バス)の利用者数	人/日	812	H24	914	R2	確定		822	△	あり			新型コロナウイルス感染拡大の影響等から、当該指標に事業効果が反映されにくく、目標の達成度を的確に測定し難いこと、また、現時点においても、他の効果発現状況から目標を達成していると十分認められることから、フォローアップは実施しない。
							見込み	●			なし			
指標2	地域交流施設の利用回数	回/月	33	H29	51	R2	確定		100	○	あり			見込値を算定した段階で目標値の約2倍と大きく上回っており、確定値である年間利用実績の一箇月当たりの平均値を算定するに当たっては、現在の利用回数の1/4程度まで減少しない限り目標値を下回らず、目標値の達成が十分に推定できる状況にあることから、現段階において目標を達成していると認められるため、フォローアップは実施しない。
							見込み	●			なし			
指標3	所要時間の短縮	分	6	H30	3	R2	確定	●	3	○	あり			
指標4				H		H	確定				あり			
指標5				H		H	見込み				なし			
							確定				あり			
その他の数値指標1				H			確定							
その他の数値指標2				H			見込み							
							確定							
その他の数値指標3				H			見込み							
							確定							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	事業実施に当たり、計画区域内の住民等に対する周知や説明を徹底したことで、本計画の目標である高架下空間の賑わいの創出や整備した施設の地域活動への積極的な活用につながり、一定程度数値目標へ反映された。	・数値目標については、客観的に評価でき、かつ、外的要因の影響を受けにくいものとすることで、成果の達成が明確となる。
	うまく いかなかった点	・一部の数値目標については外的要因の影響を大きく受ける数値目標であったため、適切な成果の達成の判断が困難であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		数値目標の設定に当たっては、計画完了後の利用の想定をより具体的に行う必要がある。
	うまく いかなかった点	一部の数値目標については、利用傾向が想定と異なったことから事業効果が的確に反映されず、実際の目標の達成度との整合性を欠いたものとなった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	本市ホームページにて公表	令和3年2月15日～2月26日	令和3年2月15日～2月26日	担当課への郵便, FAX, 電子メールなど	都市計画局 まち再生・ 創造推進室 建設局 道路建設部 道 路建設課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし
-------	----

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
花園大学 社会福祉学部 専任講師 深川 光耀氏	令和3年2月24日	都市計画局 まち再生・創造推進室 建設局 道路建設部 道路建設課

有識者の意見	1 目標を定量化する指標の設定について 目標に対し設定した指標及び測定方法等について特段問題はないが、質的な成果(アウトカム)を測定するという観点に立つと、以下の要素を取り入れられればよりよかったのではないかと。 (1) 指標の設定に当たっては、目標に応じた属性に細分化したものとする。 (2) アンケート等の定性的な情報についても、回答を点数化するなどして定量化し、指標として設定する。 2 今後のまちづくりの方策について 地域のまちづくりのあり方は、政府や自治体による「統治」から、これらに加え企業や住民、NPOなどの多様な主体が互いに知恵を出し合い、それぞれの責任において、ともに考え、行動する「共治」へと変化している。 「共治」によるまちづくりに当たり、エリアマネジメントを担う組織の果たす役割は重要である。現在計画区域を対象としたエリアマネジメントを担うまちづくり団体の設立に向けて準備を進められているということだが、同団体が区域内における市民活動における多様な主体をつなぐハブとなることが期待される。
--------	---

都市再生整備計画

らくさいぐち かつらえきこうかした ちく
洛西口・桂駅高架下 地区

京都府 京都市

(第2回変更)

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

・様式は、A4印刷とすること。

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	京都府	市町村名	きょうとし 京都市	地区名	らくさい ぐち かつらえき こうかした ちく 洛西口・桂駅高架下地区	面積	186 ha				
計画期間	令和	元	年度	～	令和	2	年度	交付期間	令和	元	年度

目標
・阪急電鉄京都線洛西口駅～桂駅の高架下空間を活用した「歩いて楽しいにぎわいのあるまちづくり」を推進する。 ・地域交流を促進し、まちづくり活動を活性化する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

<経緯>

- 本市では、平成28年3月に策定した「はばたけ未来へ！京(みやこ)プラン後期実施計画2016－2020」の中で、阪急電鉄京都線洛西口駅付近の連続立体交差化事業(鉄道高架化)により生み出された高架下空間を活用し、子育て環境の充実や世代間交流の促進、大原野「地域ブランド」戦略等との相乗効果の発揮を目指す「洛西口～桂 駅間プロジェクト」の推進を掲げている。本プロジェクトは、京都市及び阪急電鉄による包括的連携協定(平成27年12月21日締結)の下、京都市が進める「洛西ニュータウン活性化に係る取組の推進」及び「大原野“地域ブランド”戦略」等と連携し、それぞれの施策を一層効果的に展開し、西京区エリアの活性化を目指すものである。
- プロジェクト実施にあたっては、地域住民と共にまちづくりを進めることを基本に据え、京都市及び阪急電鉄(株)が連携して市民の意見をワークショップやアンケート調査等を実施し、聴取した意見を基に整備計画を策定する等、徹底した市民目線で進めている。

○平成28年度 ワークショップ開催状況

6月22日	西京まちづくりカフェ「ふらっと西京」	11月2日	京都経済短期大学
8月25日	西京区内活動団体	11月4日	西京まちづくり区民会議
8月31日	西京まちづくりカフェ「ふらっと西京」	11月9日	京都府立洛西高等学校
10月17日	京都明徳高等学校	11月10日	京都府立桂高等学校(園芸)
10月19日	西京まちづくりカフェ「ふらっと西京」	11月14日	京都市立芸術大学
10月22日	一般公募によるWS	11月25日	京都府立桂高等学校

<現況>

- 本市では、魅力あふれる歩行空間の創出、歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換等により、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指し、平成22年1月に「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定している。これに基づき、阪急電鉄京都線洛西口駅の連続立体交差化事業により、高架に沿う形で約1kmにわたる広幅員の遊歩道を高架両側に整備(高架西側6m、東側8m)した。鉄道で分断されていた本計画地区では、本事業により広大な歩行空間が生まれ、地域を南北に縦断する歩行環境は飛躍的に向上している。
- 本計画地区の存する西京区エリアにおいては、平成23年3月に策定した「西京区基本計画」を推進し、地域の絆を育み、安心して暮らせる街を目指して、地域コミュニティの更なる活性化に取り組んでおり、「西京むすび」や「ふらっと西京」などのまちづくりサロンを起点とした、任意団体等による学区・地域を超えた交流やイベントが活発に行われている。

課題

- 高架下用地の利用は一部に限定されるなど、駅に近くても賑わいに乏しく、約1kmにわたる遊歩道は歩くことを楽しめる空間にはなっていない。
- 歩行環境は向上しているが、高架東側の地域は大半が自衛隊桂駐屯地であることや、高架西側には第一種低層住居専用地域の閑静な住宅街が広がるなどの環境にあるため、整備された歩行空間に魅力を付与するコンテンツに欠けている。
- 南北遊歩道は南側が久世北茶屋線までとなっており、人口増加の著しい洛西口駅南東部地域との安心安全な歩行環境の接続ができていないため、にぎわいの連続性やひろがりが損なわれている。
- まちづくり活動を行う任意団体等の活動場所が不足しているため、地域に根差した活動がなされているとは言い難い。

将来ビジョン(中長期)

- 平成28年3月に策定した「はばたけ未来へ！京(みやこ)プラン後期実施計画2016－2020」の、個性と活力あふれるまちづくり戦略を推進する柱の一つである「地域の個性を生かした、賑わいのあるまちづくり」を推進する。
- 平成22年1月に策定した「歩くまち・京都」総合交通戦略の柱の一つである「歩く魅力を最大限に味わえるよう歩行者優先のまちづくり」の実現に向けて取り組む。
- 平成23年3月に策定した「西京区基本計画」にある人と人が支え合う区民が主役のまちづくりを目指し、地域コミュニティの更なる活性化を促進するモデルとなるよう取り組む。
- 平成29年3月に策定した「今後の道路整備事業の進め方」にある「公共交通優先のまちづくり」「関連事業やまちづくりとの連携」「道路ネットワークの充実」を実現する道路整備に取り組む。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
公共交通（バス）の利用者数	人	本件施設最寄りのバス停※の乗降客数(人/日) ※洛西口駅前、川島六ノ坪、自衛隊前、蓮田町、桂高校前、野田町	「歩いて楽しいにぎわいのある空間」の推進による、公共交通を利用した来街者の増加	812人	H24	914人	R2
地域交流施設の利用回数	回	市民団体等による当該エリアの地域交流施設※の平均利用回数(回/月) ※川岡会館・程原公会堂・東川島集会所・本件施設	地域交流を促進し、まちづくり活動を活性化することによる集会等の増加	33回	H29	51回	R2
所要時間の短縮	分	洛西口駅南東部地域の住民が、高架下施設まで 安心安全な経路で到達できる所要時間の短縮(分)	桂馬場線の整備による安心安全な歩行者ルートの確保に伴う所要時間の短縮	6分	H30	3分	R1

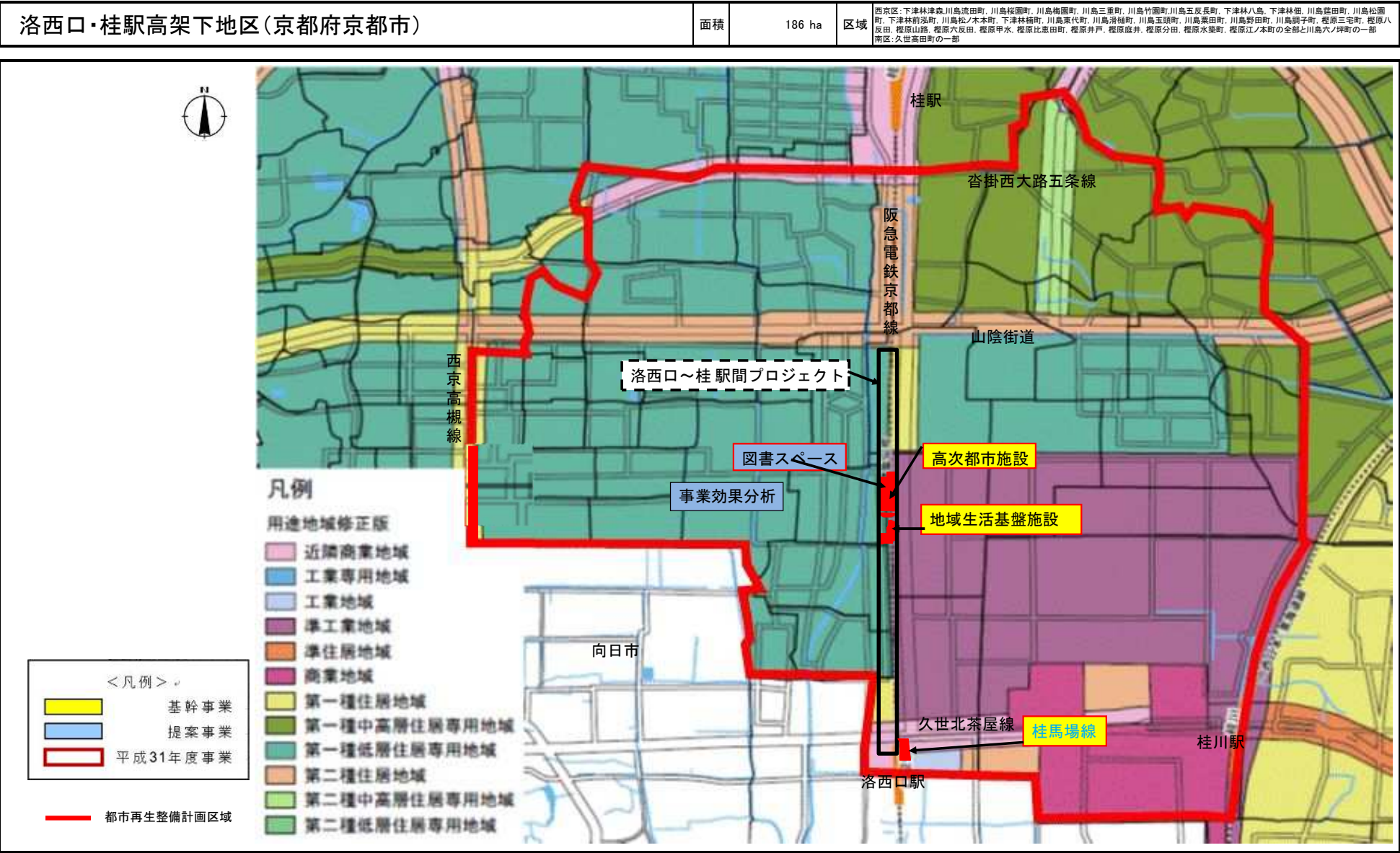
計画区域の整備方針	
○阪急電鉄京都線洛西口駅～桂駅の高架下空間を活用した「歩いて楽しいにぎわいのあるまちづくり」を推進する。 ・ベンチ等を配置したオープンな外部空間である広場や、カフェと一体的に利用できるデッキ等を設けることにより、歩行者が気軽に立ち寄ることができる空間を整備する。 ・洛西口駅南東部地域と一体となったひろがりのあるにぎわい実現のため、高架沿いの安心安全な歩行者空間を南に向けて整備する。 【関連事業】 ・整備予定地に隣接するカフェとの連携 ・連続立体交差化事業によって生まれた空間の有効利用 ・レンタサイクルを利用したサイクルツーリズム等による地域交流促進（阪急電鉄）	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】地域生活基盤施設：デッキ、情報板 【基幹事業】高次都市施設：地域交流センター 【基幹事業】道路：桂馬場線 【提案事業】図書スペース 【関連事業】連続立体交差化事業 【関連事業】子育て応援施設、カフェ 【関連事業】マルチスペース、駐輪場、レンタサイクル等（阪急電鉄）
○地域交流を促進し、まちづくり活動を活性化する。 ・地域交流センターでは、地元自治会のミーティングなどにも活用可能な多目的に活用できるスペースに、地域の方が利用できるキッチンコーナー等を備え、多様なイベントに対応できるスペースを整備するほか、パーティション等で分割利用できるようにし、あらゆるニーズに対応できるよう整備する。 ・相談コーナー等にも活用できる個室や、図書の貸出にも活用可能なカウンターを備えるなど、地域交流センターとしての活用の幅が広がるよう整備する。 【関連事業】 ・整備予定地に隣接するカフェとの連携 ・連続立体交差化事業によって生まれた空間の有効利用 ・レンタサイクルを利用したサイクルツーリズム等による地域交流促進（阪急電鉄）	【基幹事業】地域生活基盤施設：デッキ、情報板 【基幹事業】高次都市施設：地域交流センター 【基幹事業】道路：桂馬場線 【提案事業】図書スペース 【関連事業】連続立体交差化事業 【関連事業】子育て応援施設、カフェ 【関連事業】マルチスペース、駐輪場、レンタサイクル等（阪急電鉄）
その他	
○まちづくりの目標の達成に向けた計画の管理 ・行政機関、地域、関係団体と情報共有や進捗状況の確認を行う。 ○事業終了後の住民等によるまちづくりの体制 ・西京区役所、洛西支所との連携、地域のNPOや任意団体等の地域による継続的なまちづくり活動を推進。	

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

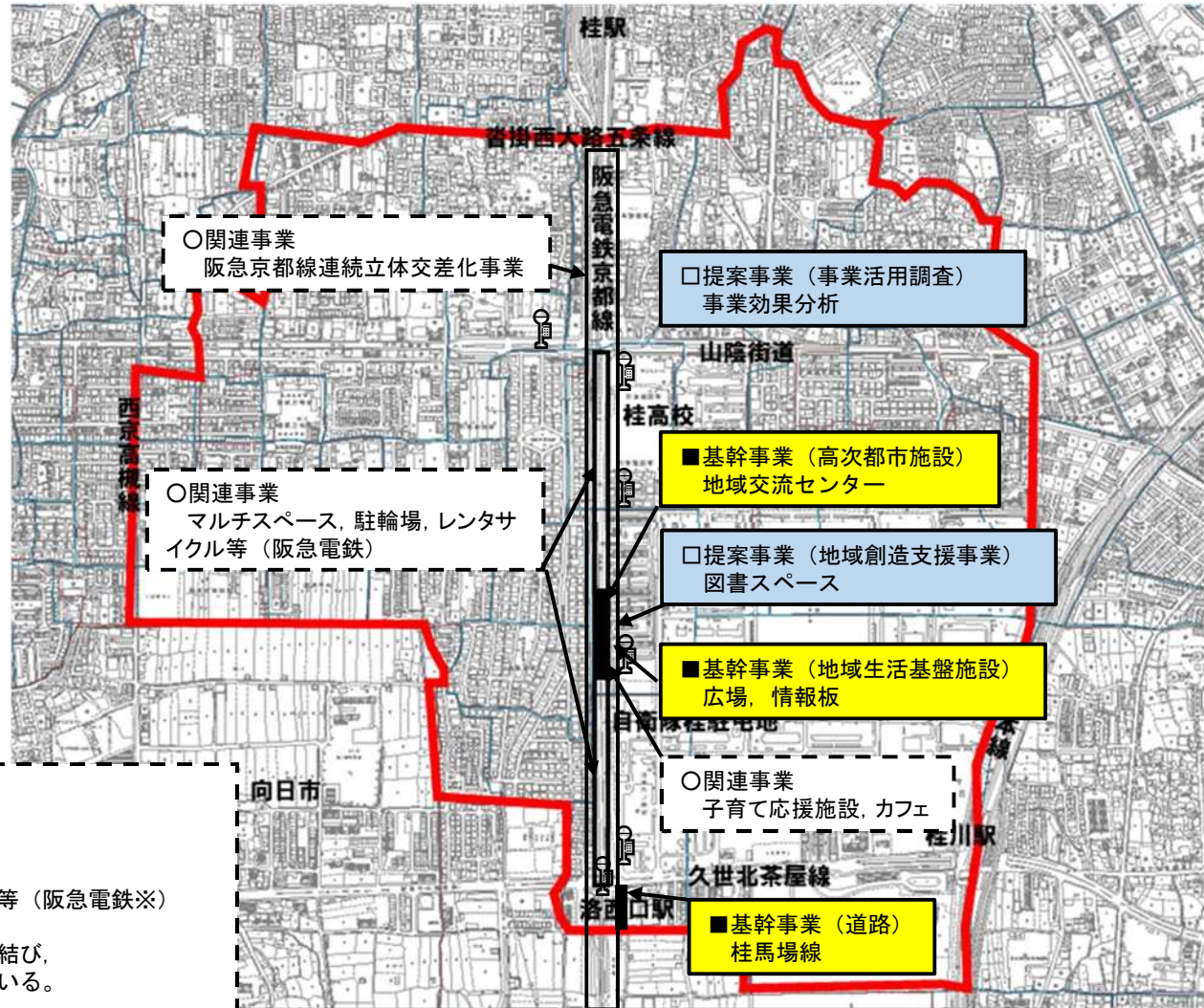
...

0198



洛西口・桂駅高架下地区(京都府京都市)整備方針概要図

目標	高架下空間を活用した「歩いて楽しいにぎわいのあるまちづくり」を推進する。 地域交流を促進し、まちづくり活動を活性化する。	代表的な 指標	公共交通(バス)の利用者数 人/日	812 (H24年度)	→	914 (R2年度)
			地域交流施設の利用回数 回/月	33 (H29年度)	→	51 (R2年度)
			通行時間の短縮 分	6 (H30年度)	→	3 (R2年度)



凡 例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

○関連事業

- ・ 阪急京都線連続立体交差化事業(京都市)
- ・ 子育て応援施設(京都市)
- ・ カフェ(京都市)
- ・ マルチスペース, 駐輪場, レンタサイクル等(阪急電鉄※)

※ 阪急電鉄株式会社と包括的連携協定を結び、
洛西口駅～桂駅間のまちづくりを進めている。